

# 連携

栗原市立栗原中央病院

広報誌

編集：広報委員会、地域医療連携室  
平成25年8月発行

## 第47号

### 病院の理念

わたしたちは、患者さまを第一に考え、いのちを大切にす最善の医療を行い、地域に貢献します

### 基本方針

わたしたちは、患者さまのことを考え、いのちを大切にします

1. 市民から信頼される、安全な医療を行います
2. 良質な医療を行うために、つねに新しい知識と技術を身につけるように努めます
3. 地域のニーズに合った医療を提供することで、地域に貢献できる病院をめざします
4. 地域の医療の中心として、ほかの医療機関との連携に努めます

患者様とご家族様が自分らしい生活をおくるためのサポーターとして



## がん患者緩和ケアチーム発足

がん患者緩和ケアチーム部会 委員長 中鉢誠司

5月より緩和ケアチームが発足しました。メンバーは医師、薬剤師、栄養士、社会福祉士、緩和ケア専門の看護師と各病棟のリンクナースで構成されています。多職種が協働することで、患者さんの生活の質の維持向上を目指しています。

緩和ケアは、がんと診断された時から始まります。

患者さんや家族は身体的な苦痛のみならず、病気に対する不安や、仕事・家族のことなどたくさんの不安を抱えています。痛みや症状を緩和することはもちろん、精神的つらさや、不安な気持ちをささえ、患者さんと家族が安心して治療を受けられるよう支援して行きたいと考えています。

現在は入院患者様を対象としていますが、徐々に外来患者様へも広げていければと考えています。今後ともよろしくお願ひします。



## 病院機能評価Ver.6.0 認定



平成25年1月に更新審査を受診したところ、6月7日付けで日本医療機能評価機構より認定の通知を受けました。



〒987-2205 宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1  
栗原市立栗原中央病院（代表）TEL：0228-21-5330 FAX：0228-21-5350  
<http://www.kurihara-central-hp.jp/>  
地域医療連携室（直通）TEL：0228-21-5335 FAX：0228-21-5336

## 認定看護師紹介

当院には5名の認定看護師が、さまざまな分野で活躍しております。認定看護師を目指した理由や当院についての自分の役割をどのように考え、そのための具体的な行動計画などについてインタビューしました。 ※各下段の( )内は研修期間と研修地を表記しております

認定看護師とは特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護が実践できる看護師のことをいいます。



### 認定看護管理者(Certified Nurse Administrator)

いしもた ゆみこ  
石母田 由美子看護師長

「石巻で働いていた時に、7対1やDPCの導入など医療政策の方針追加があり、これらのことをスタッフに適切に説明できない自分がいたんです。公平な勤務表を作成したいと思っても、そのための知識が不足していたために説得力もなく、自信も持てず、このままでは職務責任が果たせないことを痛感しました。この思いから看護管理についての知識を得ようと勉強しました。」

「研修中には看護職団体のデモ行進に出くわしたり、看護協会の会長の講話を直接聞く機会などがあり、看護管理とは何なのかをより肌で感じることができました。また研修を通して構築できたヒューマンネットワークは、今回の3.11大震災においても私の人生そのものを支えてくれた大きな力になりました。」

「今、国はどの方向に進もうとしているのかを知ること、医療制度や改革の方向性はどちらを向いているのかなどに関心を持つことは、自分が今、どの位置に立っているのかを知ることにつながると思います。そうすることで日々の業務に忙殺され、燃え尽き症候群などに陥る自分を支える力になることを知ってほしいですね。」

(H10:ファースト、H16:セカンド、H18サード、H19看護管理者に認定 看護協会研修センター 東京都清瀬市)



### 感染管理(Infection Control)

おがた せいか  
小形 聖香看護師長 (写真:右)

「以前勤務していた救命救急センターで、MRSAやメタロβラクタマーゼ産生緑膿菌が問題となり、感染拡大や防御について学びたいと思ったからです。」

「感染管理室の役割は『病院にいるすべての人(患者様とご家族、院内職員すべて)を感染から守る』ことです。そして、このことは市民を守ることに繋がると考えています。そのために感染症発生の情報を収集・分析し、感染拡大を防ぐ方法をわかりやすく伝えていくことを実践していきます。」

(2003.10~2004.3 国立看護大学校研修部「感染管理コース」)



### 皮膚・排泄ケア

#### (Wound, Ostomy and Continence Nursing)

あさだ しょうこ  
浅田 祥子看護師 (写真:左)

「人間にとって、排泄する機能が整っているかどうかは日常生活を送る上で非常に重要なことです。癌などでストマを作った患者様にとっては尚更、QOLに関わる重要な問題となります。また、褥瘡のある患者様は傷にだけ着目するのではなく、全身的に管理し改善することが患者様のQOLに大きな影響を与えます。これらのことについて専門的知識と技術を持って患者様の個別性に合った看護を提供したいと思い、勉強しました。」

「入院すると排泄の仕方が変わったり、処置が必要になったりするけれど、できるだけ入院前と変わらない状態で自宅に帰してあげられるようにプランニングし、一番いい皮膚のケアの仕方を伝えていきたいですね。」

(2008.6~2008.12

宮城認定看護師スクール)



たかはし ひろこ

がん化学療法看護(Cancer Chemotherapy Nursing) 高橋 寛子看護師 (写真:左)

「がん化学療法の治療を受けている患者様は命を懸けて治療にのぞんでいます。これらの患者様に係わることの多かった私は、自分の知識の少なさに疑問を感じていました。また自分にもがんの疑いがかかり、大きな不安を感じたことから、がん化学療法に対する専門的知識を習得したいと思い研修を受けました。」



「がん学会に参加した時に『患者様の外見を整えるだけで余命が伸びる』というお話を聞きました。誰にでも“病気であっても美しくありたい”という気持ちがあると思います。今後はそんな気持ちに働きかけていきたいと思っています。たとえばネイルアートなら自分達でも簡単にしてあげられますよね。」

「看護師の中には化学療法はこわい、係わりたくないという方がいます。今後は職員に対しても正しい知識と技術の普及に努め、患者様はもちろんのこと職員も安心して化学療法を行えるようにしたいと思います。」

(2010.6~2010.11 日本赤十字看護大学看護実践研究フロンティアセンター 東京都武蔵野市)

すがわら えりこ

緩和ケア(Palliative Care)菅原 恵里子看護師 (写真:左)

「自分が病気になり心身両面の苦痛を体験しました。そんな時に体の痛みだけではなく、心の痛みも和らげてくれる病院に出会い、救われた経験から自分もそんな看護師になりたいと思い、目指しました。」

「自分の知識の向上とともに、緩和ケアに対する院内の職員の意識も高められるように他職種での研修会やカンファレンスをやっていきたいですね。また患者様だけではなく広く一般市民のみなさまにも興味をもって頂きたいので、地域に出てお話をしていきたいです。」



(2012.6~2013.1 岩手医科大学高度看護研修センター 緩和ケア分野)

オープンホスピタルを終えて

平成 25 年 5 月 14 日(火)から 17 日(金)の 4 日間、当院において『ようこそ栗原中央病院へ～オープンホスピタル～』が開催されました。

今年度は医局や放射線科、リハビリ科、栄養科、検査科、薬剤科、看護部が健康相談や院内見学などさまざまなイベントを企画し、病院全体で取り組みました。



期間中の参加延べ人数は 238 名。市民のみなさまからは「気軽に参加できてよかったよ」「来年もやってね」など、たくさんのお言葉をいただきました。参加した職員からも「自分たちの仕事を知っていただくことができてよかった」と話していました。



行ってきました！お茶っご会！

去る 6 月 11 日、院長先生と千葉は、若柳上大目地区のお元気なみなさんが集うお茶っご会に、講師として参加いたしました。



院長先生は「当院の救急医療状況について」、千葉は「死ぬまで元気に笑顔で生活するために」というテーマでお話をいたしました。お集まりの皆さんからは「こんなところに院長先生が来てくださって、直接お会いできたなんて本当に幸せです」との声が聞かれました。まるで、AKB48 にでも会えたような反応でした。さすが院長パワーですね。

地域医療連携室は、これからもどんどんと積極的に市民の皆様との輪の中に入り、当院を正しくご理解いただくよう工夫を重ねてまいりたいと考えています。そして、市民の皆様と職員の“かけはし”になるようがんばります！ (地域医療連携室長 千葉由美子)

## 新規採用職員紹介



平成 25 年 6 月 1 日付けで採用となりました。東北大学病院の  
研修医 2 年目、当院において 6 か月間研修を行います。

臨床研修医 2 年目 S.A



よろしくお願いたします

## 《学会・研修会・論文発表》

★日本超音波医学会 第 86 回学術集会 2013.5.24-26 一大阪市一

『ヨードアレルギー例と腎疾患例に対する造影超音波の有用性の検討』

…千葉崇宏、引地健生、木田真美、佐藤修一、

大山葉子（秋田組合総合病院 臨床検査科）、長沼裕子（市立横手病院 消化器内科）、

石田秀明（秋田赤十字病院 超音波センター）



## 平成 24 年度 診療の実績

### ◎内視鏡検査等状況

	上部消化管				下部消化管		ERCP 関連	合計
	診断的 内視鏡	止血術	粘膜切除 粘膜下層 剥離術	胃瘻造設術 食道拡張術 異物除去他	診断的 内視鏡	治療内視鏡 ポリペクト ミー他		
合計	1996	103	50	61	1028	233	253	3724

### ◎手術実施状況

区 分	全身麻酔				腰椎麻酔				局所麻酔					合計	
	外	皮	整	計	外	皮	整	計	外	眼	皮	内	整		計
合計	272	8	183	463	18	1	89	108	13	247	24	3	43	330	901

## ご案内

## ☆地域医療連携室 学術講演会☆

下記の日程で講演会を予定しております。

日 時：平成 25 年 8 月 26 日（月）18:30～

場 所：栗原中央病院 2 階講義室

演 題：『誤嚥が関与する肺炎への対応を考える』

講 師：愛知医科大学病院 感染症科/感染制御部  
准教授 山岸 由佳先生

座 長：栗原中央病院 地域医療連携室顧問  
副院長 佐藤 修一先生



## ☆七夕コンサート☆

日 時：平成 25 年 8 月 5 日（月）18:30～

内 容：くりくり保育園園児によるゆうぎや  
職員による合唱、看護師長会による  
盆踊り、市民ボランティアによる読  
み聞かせなどがあります。

お楽しみに～♪



## 編集後記

暑中お見舞い申し上げます。

おいしい漬物を食べながらのお茶っこ会いい  
ですね。連携室ではこれからも地域の輪に入  
り、市民と共によりよい病院づくりをしてい  
きたいとおもっております。

